

平成26年5月12日（月）

「第6回 Generic Drug of the Year 2012」有山先生受賞記念講演

横浜市立大学における ジェネリック医薬品活用術



横浜市立大学附属病院薬剤部 小池 博文

協力：有山良一先生、薬剤部DI室・薬品管理室のスタッフの皆様

横浜市立大学附属病院(横浜市金沢区)

＜H25年度実績＞

外来患者数 1,910人/日

平均在院日数 15.1日

病床利用率 86.5%

特定機能病院

がん診療連携拠点病院



薬剤部職員
正職員43名、非常勤6名
事務員4名 計53名

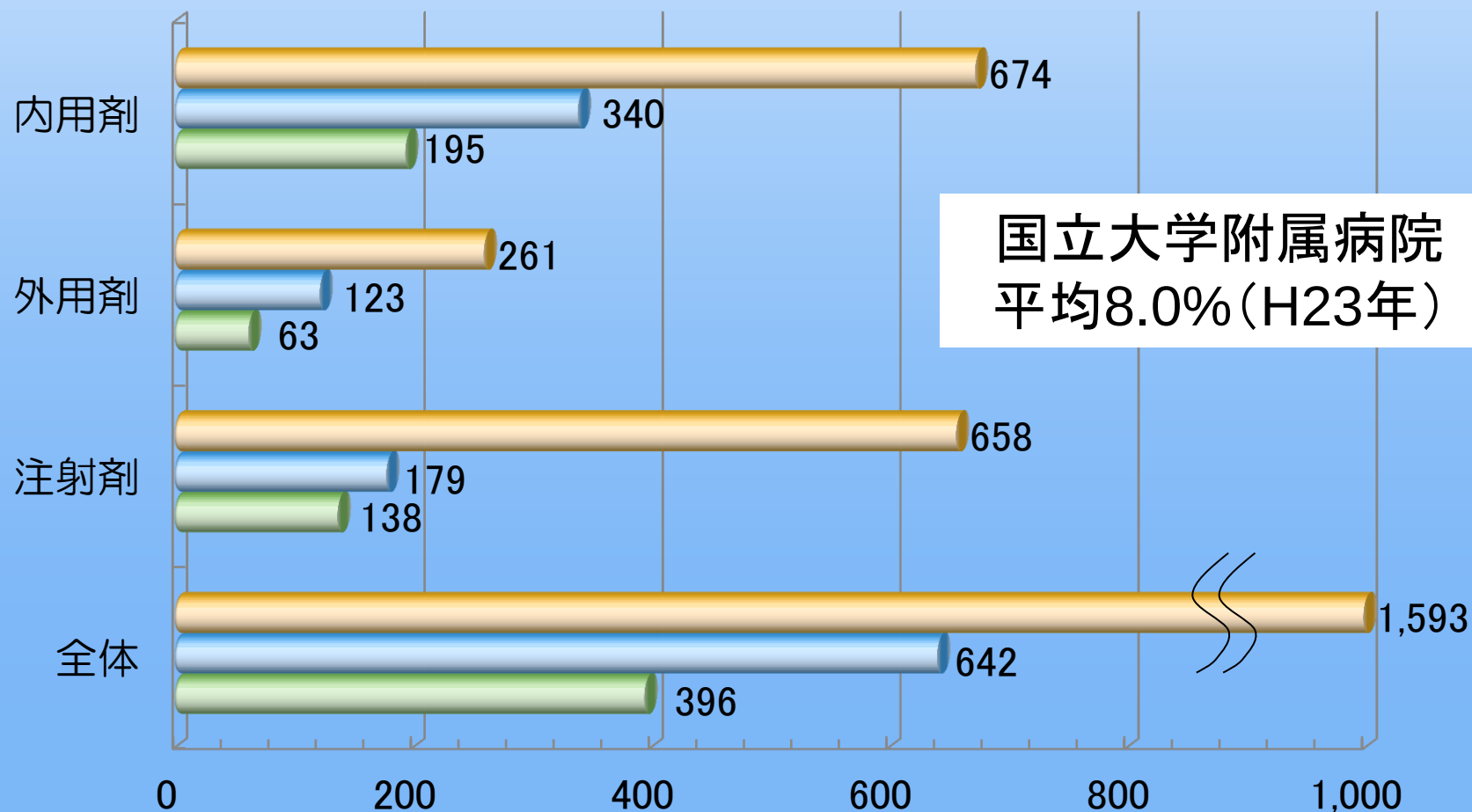
654床(一般612、精神26、結核16)

採用医薬品数の推移



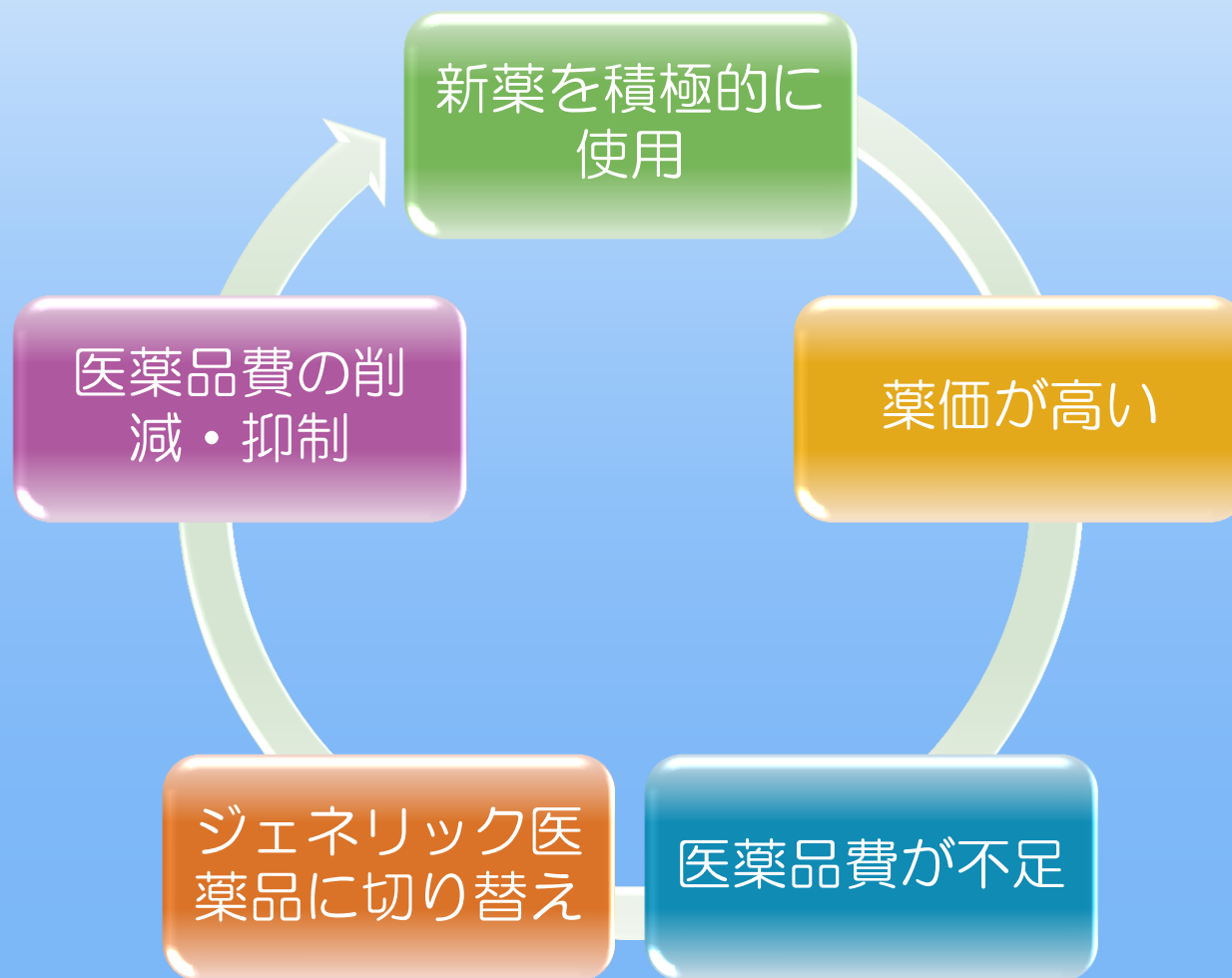
採用品目数（剤形別）

■ 全採用数 ■ GEに切替が可能な数 ■ 実際のGE採用数



国立大学附属病院
平均8.0% (H23年)

当院での医薬品採用ロジック



ジェネリック医薬品に必要とする要素



ユーザーフレンドリー
アドヒアランスの向上

経済的インパクト

医療安全の推進

(メーカーの)
情報提供体制

堅固な安定供給体制(必須)

ジェネリックへの切り替え基準 (薬事委員会におけるコンセンサス)



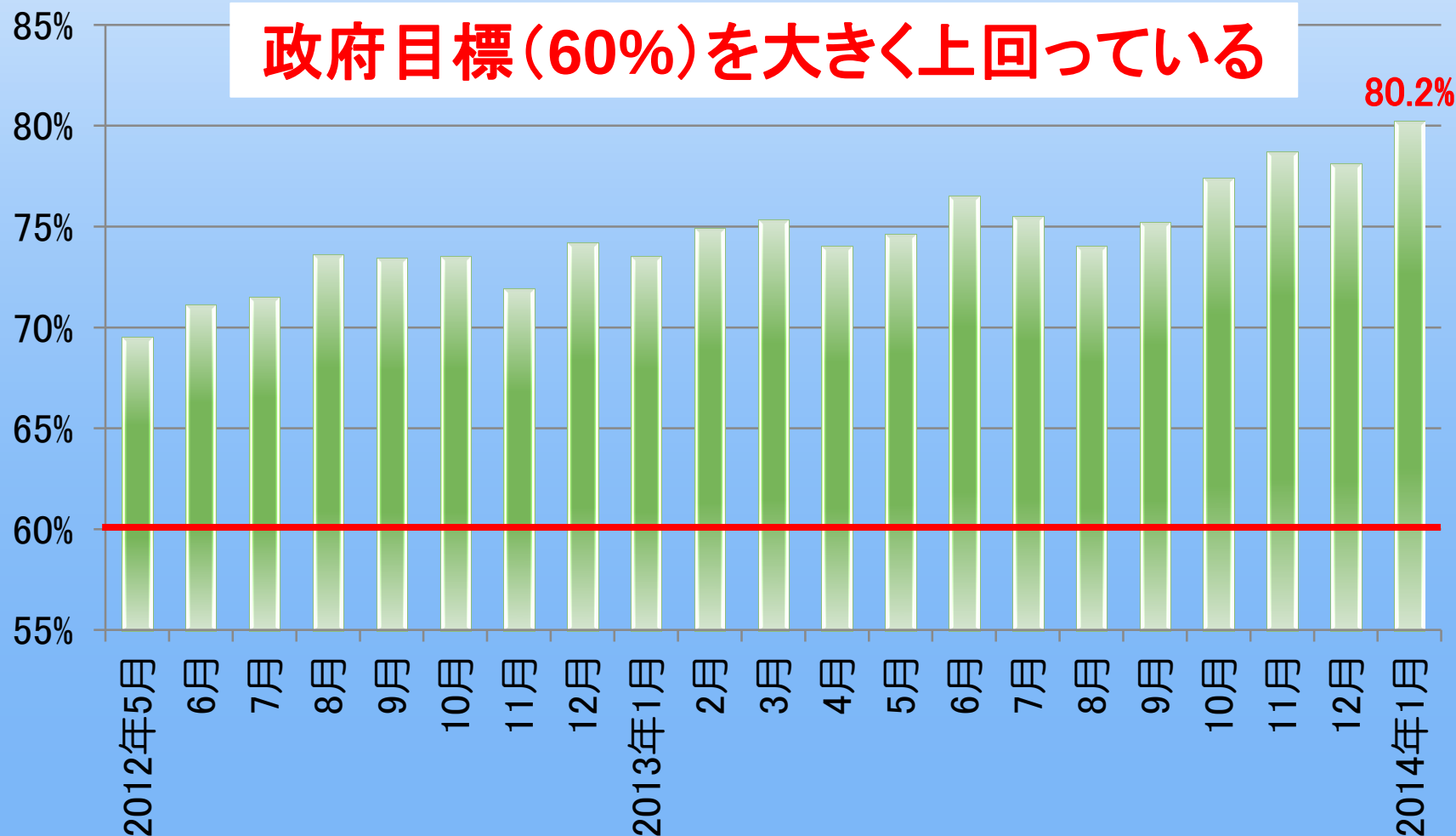
- すべての薬効群で切り替え
 - 聖域は設けない
- 情報提供体制
 - ハイリスク薬については重点項目とする
 - 抗がん剤は先発系メーカーのGEを優先する
- 切り替えのタイミング
 - 一度に大量のGEを導入しない
- 製品名
 - 原則として、製品名は一般名とする
- 競合品
 - 著しい優劣がない場合、競争入札により決定

患者の利益を優先するために

- 内用、外用剤でもジェネリックを促進
 - 経済的インパクトは少ないが、心理的なインパクトは大きい
 - いわゆる高付加価値型製剤は、注射剤よりも種類が多い
 - 病院で服用していれば、退院後も継続が容易
 - 保険薬局からも「〇〇病院が採用していれば、患者さんに説明しやすい。」との意見が

GE全体のイメージアップ貢献度
内・外用薬 $\geq$ 注射薬

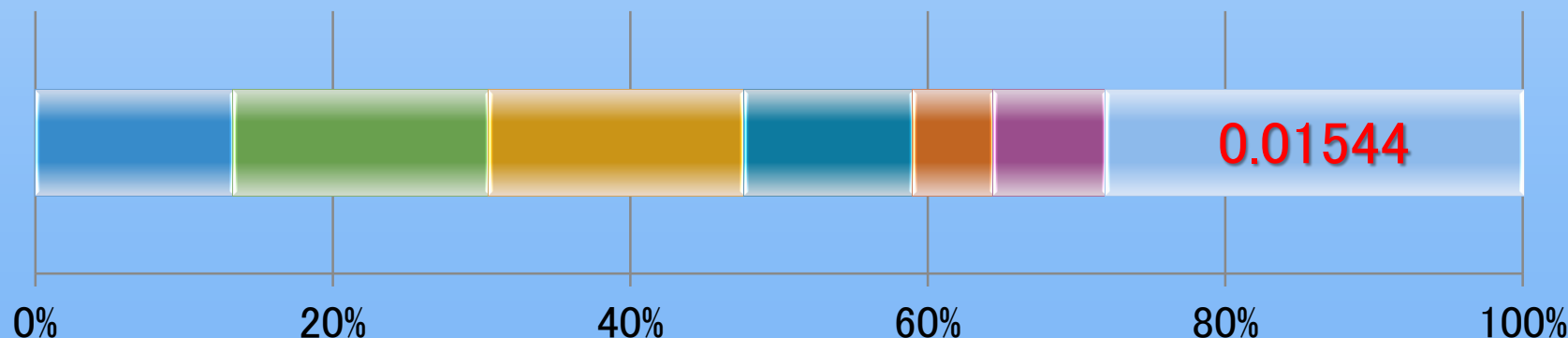
当院の後発医薬品シェア (数量ベース、EFファイルより)



当院での経済的インパクト

■ 機能評価係数Ⅱ（0.0550）の内訳

- 保険診療係数
- カバー率係数
- 後発医薬品係数
- 効率性係数
- 救急医療係数
- 複雑性係数
- 地域医療係数



DPC包括金額 約40億円 × 0.01544
→ 年間で約6,000万円の収入

(参考) 病棟薬剤業務実施加算: 0.0067

ジェネリック医薬品を医療安全に活用



名称が何の
薬かわかり
にくい

添加剤が
異なる

デザイン
や表示が
様々

先発品と異なること
を活かして、
差別化を図ることが
可能

GEのネガティブ要素

ポジティブ要素
として考える！

名称が類似した医薬品への対策

- 一方の薬剤を採用削除する
 - 薬剤師や看護師の取違防止に最も有効
 - いずれも必須薬剤で、削除できない場合も多い
- 薬剤を違う銘柄に切り替える
 - 薬剤師や看護師の取違防止にかなり有効
 - **ジェネリック医薬品を積極的に活用！**
 - **持参薬は薬剤師が確実にサポート**



・ノルバスク錠
・ノルバデックス錠



・アムロジピン錠
・タモキシフェン錠

安全管理上で問題となりやすい 使用上の注意



- ○○分以上かけて点滴静注
- 他剤と混合しない
- 注射用水で希釈後、他の輸液と混合
- PVCフリーの輸液セットを使用
- フィルターをつけて（つけないで）投与する
- 溶解時、強く振盪しない
- 溶解液○○mL中、○○mLを秤取して投与

これらがラベルに印字されていることが望ましい

おわりに

- 横浜市立大学附属病院では、有山先生が着任された2005年より、本格的なGEの導入が始まった
- これまでの価格差や添加物の同一性といった議論から、患者さんの視点、ひいては医療安全にもつながる手法でGE選びを行ってきた
- 2007年には、薬事委員会での審議17品目すべてが薬剤部からの申請だった
- これまで、有山先生が優れた特徴を持つGEの普及・啓発を様々な学会や研修会等で講演した結果、今では多くのGEが改善されてきている